

全国協議会 ニュース

2020年11月1日発行 第339号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

移植医療対策推進室長に田中彰子さん



造血幹細胞移植を担当する厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室長に8月、田中彰子（たなか・あきこ）さんが就任されました。自己紹介と新職務に対する思いを語って頂きましたのでご紹介します。

直近まで新型コロナウイルス感染症対策に従事され、with コロナ時代に対応したドナー登録の推進、医療提供体制の整備等や、若年層ドナーの確保、コーディネート期間短縮などの課題への取り組みについて語られました。

令和2年8月1日付で移植医療対策推進室長を拝命しました田中彰子でございます。全国骨髄バンク推進連絡協議会会員の皆様におかれましては、日頃より、骨髄移植等の推進にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は麻酔科医として長年勤務をしたのち、人事交流を経て平成28年厚生労働省に入省致しました。入省後は、専ら健康局で感染症対策、難病対策、被爆者援護対策、直近では新型コロナウイルス感染症対策に従事して参りました。臨床医の経験を生かし、造血幹細胞移植等に携わる医療従事者や患者様のお声をよく伺いながら施策を立案・実行して参ります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、「移植に関する造血幹細胞の適切な提供に関する法律」が平成26年1月に施行されてから今年で7年目となり、ドナー登録者数は約53万人、これまで日本骨髄バンクを介した移植件数は約2万5千件を数えます。今年は新型コロナウイルス感染症の流行により、献血バスや献血ルームにおけるドナー登録が制限され、新規ドナー登録者数は例年と比べ少なくなっている一方で、現時点で例年並みの移植件数を確保しております。

ひとえに、貴協議会をはじめ、会員の皆様、日本骨髄バンク、日本赤十字社など関係者のご協力の賜物であり、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

げます。

骨髄移植等を取り巻く現状を見ますと、骨髄等ドナーの確保、コーディネート期間、医療提供体制の整備等について課題がございます。

骨髄等ドナーにつきましては、令和元年末時点で、ドナー登録をされている最も多い年齢層は46歳となっており、ドナーの高年齢化が進んでいます。また、ドナーとして選定されても、職場等の理解が得られない又はドナー休暇制度がないことから骨髄等の採取に向けたコーディネートを中断せざるを得ない場合があります。

コーディネート期間につきましては、ドナー候補として検索されてから、確認検査、選定、最終同意面談、骨髄等採取等までの全行程の中央値として約113日となっており、この期間を更に短縮することが求められています。

医療提供体制につきましては、造血幹細胞移植を受けようとする患者がどの地域の病院においても、疾病の種類や治療ステージに応じた最適な造血幹細胞移植を受けることができ、更に造血幹細胞移植を受けた患者が、どの地域に居住していても、質の保たれた生活を送り、就労支援等を含む長期のフォローアップを受けることができる体制の整備が求められています。

厚生労働省では、こうした課題への対応として、若年層が多く集まる登録

会場に重点を置いた取組や企業等に対しドナー休暇制度について理解を求めするための個別の説明等を実施しています。

また、現在、全国9ブロックにおいて、指定した12施設の造血幹細胞移植連携推進拠点病院において、他の医療機関とも連携をとりつつ、人材養成事業、コーディネート支援事業、地域連携支援事業の各事業を実施しているところです。

骨髄移植等を必要とされる患者様が一日でも早く最適な医療を受けられるよう、with コロナ時代に対応したドナー登録の推進、移植をしやすい環境作り、移植後も含めた切れ目のない医療を提供できる医療提供体制の整備を進めて参ります。

最後になりますが、これまで申し上げたことは、行政として責任をもって進めていくべきものでありますが、関係者の皆様方との連携があってはじめて可能となるものです。

骨髄バンク事業の発展を支えてきて頂きました皆様におかれましては、今後とも、一層のご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(10月15日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2020年9月末現在)

	8月	9月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,667	2,516	529,069	838,647
患者登録者数	205	236	1,837	60,170
移植例数	79(19)	116(27)	—	24,748(1,082)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■9月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/631人、献血併行型集団登録会/1,831人、集団登録会/0人、その他/54人

■9月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,479人/20代 82,870人/30代 137,746人
40代 223,735人/50代 81,239人

■9月の20歳未満の登録者204人

■9月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,037件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

妊孕性温存の 公的助成制度などについて意見交換



左より：野田会長、田中理事長、大谷顧問

9月26日(土)岐阜市内で聖マリアンナ医科大学の鈴木直教授、岐阜大学医学部の古井辰郎教授と、妊孕性温存(精子・卵子などの凍結保存)における公的助成制度について大谷貴子顧問と共に意見交換を行いました。

日本がん・生殖医療学会では、現在、がん治療における妊孕性温存における各県等での支援制度が、47都道府県のうち23地区まで拡大してきたことから国での制度に向けた要望活動を行うというものです。

一方、全国協議会はこれまでこのとりマリン基金で多くの支援をするとともに、クラウドファンディングで

財源の支援をお願いしてきました。また今回は「どりサポ」として病気の克服後に赤ちゃんを抱ける幸せをアピールすることとなりました。さらに、日本造血細胞移植学会総会で妊孕性温存における公的支援制度の拡充を提案するほか、医療講演会やセミナー等で「AYA世代がん患者の妊孕性温存、公的支援制度の必要性」を取り上げ、妊孕性温存について意識啓発を進めていくこととしています。こうした方向性は日本がん・生殖医療学会の方向性と一致するところが多いので、共に活動を進めることで合意しました。

また、この問題は患者さんが初めて白血病の告知を受けた、大変デリケートな時の問題でもあるので、卵子保存だけではなく、病を克服後に新たな命を授かる可能性について広く意識啓発を進めることが重要であることもお互いに確認したところで、その現状や課題について意見交換を行いました。

引き続き、骨髄・さい帯血バンク

議員連盟会長の野田聖子衆議院議員と面談し、これまでお願いしている予算要望の現状のほか、妊孕性温存制度における公的支援制度の拡充として意見交換を行い、国の制度となるよう要望しました。野田会長の意見としては、このことは大事なことなので、今後取り組んでいくということでした。また、患者さんからの声もあることから、患者のQOL向上を求める視点として、病室でのWi-Fi整備は社会インフラとしての整備をお願いするとともに、在宅医療支援制度の充実についてもご支援をお願いをいたしました。

(全国協議会理事長 田中重勝)

野澤明男さん ありがとうございました



全国協議会元理事
野澤明男さんが10月10日、ご逝去されました。享年42歳。
野澤さんは所属していた千葉の会の推薦で2013年度から2期連続・4年間理事を務められ、患者サロンや軽作業ボランティアの運営など、患者さんが外に出ていく第一歩のお手伝いにご尽力されました。ご冥福をお祈りいたします。

野澤明男さんが10月10日、ご逝去されました。享年42歳。野澤さんは所属していた千葉の会の推薦で2013年度から2期連続・4年間理事を務められ、患者サロンや軽作業ボランティアの運営など、患者さんが外に出ていく第一歩のお手伝いにご尽力されました。ご冥福をお祈りいたします。

令和3年度厚生労働省概算要求 ～ 全国協議会の要望実現への第一歩～

厚生労働省は、「患者の病気の種類や症状に応じて、3種類の移植術(骨髄移植・末梢血幹細胞移植・臍帯血移植)から適切な移植術を選択し実施できる医療体制の整備や、治療成績の向上を図るとともに、造血幹細胞移植に必要な基盤(バンク)の安定的な運営を支援する。」として、本年度予算より5億9000万円増額の総額30億2000万円の概算要求となっています。

新しい事業として①ドナー登録情報のWEB入力システムの構築(コロナ対策で対面せずにWEBでの入力登録手続きを可能とするための環境整備)に3000万円、②スワブ検査法実証試験事業(スワブ法導入における課題を整理する)に2700万円、また、③支援機関業務としてドナー登録のオンライン化やデータ管理及びコーディネートシステムの全面的な更新費用4億9000万円が予算要求されました。全国協議会が要望していた内容が国の理解により予算要求され現実に向かう事になります。これにより特に若年層のドナー登録者が増加し、移植を望むすべての患者さ

んにドナーが見つかることを切望します。

造血幹細胞移植医療対策関係予算総額 ()内は昨年度30億2000万円(24億3000万円)

- ・骨髄バンク運営費 5億3200万円(4億9900万円)
骨髄バンクへの補助金。安定的な運営のための支援。上記②はここに含まれます。
- ・骨髄データバンク登録費 6億8000万円(6億3500万円)
日本赤十字社への補助金。骨髄等ドナーのHLA(白血球の型)の検査及びデータ登録等に要する経費。上記①はここに含まれます。
- ・支援機関業務 6億8000万円(1億9200万円)
日本赤十字社への補助金。支援機関としての運営経費を計上。上記③の項目が追加されました。
- ・臍帯血バンク運営費 6億2000万円(6億1900万円)
臍帯血供給事業者(臍帯血バンク)の安定的な運営のための支援。
- ・移植医療整備事業 4020万円(4000万円)
全国9ブロックの造血幹細胞移植連携推進拠点病院への運営補助金。
- ・患者・ドナー情報登録支援事業 9900万円(7700万円)
日本造血細胞移植データセンターの運営補助金。

(令和3年度政府予算案は12月の閣議により正式決定されます)

小児がんの子どもたちの明るい未来を願って サポーター活動開始



私達は青森県在住の小児がんの子を持つ夫婦です。

2019年5月、生後4カ月の愛娘に小児がんの診断が下されました。病名は「急性骨髄性白血病」。まさか私達の娘が、日本で約1万人に1人が罹患すると言われる病気になるとは思いもしていませんでした。

3000gで元気良く生まれ、生後1カ月・3カ月健診ともに発達良好で安堵していた矢先のことです。娘の身体に赤い発疹のようなものが突然現れ、異変が起り始めました。小児科に連れて行くと、ミルクアレルギーの可能性があるとされ様子を見ることになりましたが、娘は昼夜激しく泣き続け、母乳もミルクも飲まなくなり日に日に元気がなくなっていきました。更にお腹が膨らみ、さすがに様子がおかしいと再受診したところ、脾臓が腫れており今すぐ検査が必要とのことで急遽市内の総合病院へ行き、そこで予期せぬ「白血病」の宣告を受けました。

突然の宣告で、どんな病気でどんな治療をするのか、何もかもわからず頭の中が真っ白になりました。

そして、市内では治療が出来ないため、翌日から市外の大学病院での入院が必要だと言われ、私たち家族の生活や仕事はどうしていけばいいのか一気に沢山の不安に襲われ、この瞬間から私たち家族の生活は一変しました。

治療に向けてまず辛かった事は、傷1つない娘の小さな身体にメスを入れる事でした。首、鎖骨付近に点滴の管を入れる手術を受けました。そして治療が本格化すると重篤な感染症にもかかりました。40度の高熱が続き、主治医からは命に係る危険な状態で、続

くようであれば親の輸血が必要だと言われました。私の血で足りるならいくらでも差し出すので、どうか娘を助けて下さい…。でも、もし輸血が足りなかったら…と考える度、心底恐怖を感じ、胸が張り裂ける思いでした。幸いその後回復した娘は化学療法のみで退院できた為、親の輸血や骨髄移植には至りませんでした。娘の闘病から、輸血や骨髄移植に対する重要性を学びました。

青森県には小児がん支援団体がありません。そこで私達は、親の立場として心苦しい経験をし、同じように大変な思いを抱えている人がいるのではないかと、私達の経験を役立てることが出来ないだろうか。専門家ではない私達ですが、実際に輸血や骨髄移植が命を繋いでいる現場を目の当たりにし、小児がんの子を持つ親の立場だからこそ伝えられることがあるとの思いで、青森県小児がんの子ども・家族のサポーター「tomoshi+ (ともしびプラス)」を立ち上げ、2020年8月から活動を開始しました。

小児がん患者・家族に対する治療後の地域のサポート、長期的なフォローなどの支援体制は充分とはいえ、沢山の課題があると感じています。今現在、娘は退院後の経過も良く元気に過ごしていますが、治療による影響や感染症、合併症等の不安は拭えません。万が一再発してしまったら…そう考えると夜も眠れなくなります。

小児白血病の子を持つ親として、何か少しでも役に立てることが出来ればとの思いで、私達なりに活動をしていけたらと考えています。最愛の娘、そして小児がんの子どもたちの明るい未来を心から願います。

(tomoshi+ 米田親弘・百恵)

基金給付を受けた方からの メッセージ

佐藤きち子記念
造血細胞移植患者支援基金

この度は、佐藤きち子記念造血細胞

移植患者支援基金の助成をして頂きまして、誠にありがとうございました。

我が家は母子家庭で高校受験を控えた娘を祖母に預け、骨髄移植をする息子と一緒に移植病院の近くに引っ越して来ました。ようやく体調も安定してきたのですが、息子のそばを離れる事もできず、二重生活をしています。私は仕事も辞めて来ているので、収入が無く、正直大変なのですが、今回助成をして頂けて本当に嬉しくありがとうございました。本当に本当にありがとうございました！！

まだ治療も続き、いつ退院できるかはわかりませんが、一日も早く家に帰り、また家族みんなで楽しい日々を過ごせるように息子と一緒に頑張ります。

この度は誠にありがとうございました！！

(関東地方在住 患者さんのお母様)

こうのとりのマリン基金

私は、悪性リンパ腫と診断を受け、入退院を繰り返しながら治療を行い、無事に寛解することができました。少しほっとしたのも束の間、抗がん剤治療により卵巣機能が大きく低下していることがわかり、すぐにでも卵子採取をしておかなければ、妊娠できる可能性がなくなってしまうとの事でした。

卵子採取を行うには、かなりの費用がかかるため、諦めざるを得ない状況でどうすることもできずにひどく落ち込んでしまいました。そんな時に主治医の先生からこちらの事を伺い、助成をして頂いた事で、卵子保存する事ができ、今後に向けて大きな希望を持つことができました。

基金の方々には何度も相談にのって頂き、大変お世話になりました。言葉に尽くせないくらい感謝しております。本当に本当に有難うございました。寄付をしてくださった方にも心よりお礼を申し上げます。病気にならずと目の前の事だけで精一杯でしたが、この大きな希望を持てたことで、今とても幸せです。近い将来、子どもと笑顔で過ごせる日を夢見て歩んでいきたいと思えます。

(近畿地方在住)



大阪

第6回「いのちのつながり展」開催



池田市役所ロビー展示会場にて

10月は厚生労働省が定める「骨髄バンク推進月間」です。その期間に合わせて、大阪府池田市では9月29日(火)から10月13日(火)まで大阪府池田市役所1階ロビーにて「いのちのつながり展」を開催しました。

大阪池田モラロジー事務所主催の「伝えよう!いのちのつながり」作品展では、長年続けてきた小・中学生を対象とした「伝えよう!いのちのつながり」作品募集を今年は夏休みの短縮のため実施せず、小・中学生が書いた作文の過去21回の優秀作品の展示を行いました。「いのちのつながり」の大切さ、生きていることの素晴らしさを多くの人に伝える作品展となりました。

届け!関西からいのちのバトン!主催の「春ちゃんは元気です」パネル展は、実話をもとにした、4歳で白血病と闘った少女の物語を描いた絵本の展示を行い、「著名人パネル」も併せて展示を行いました。

また、富田裕樹池田市長を訪問し、いのちのつながり展を通じて、市民の皆さんに「いのちの大切さ」を改めて感じて頂き、献血・さい帯血バンク・骨髄バンクの必要性とドナー登録の重要性に気付いていただければ幸いです。とお伝えしました。

開催日以降の献血予定も記載したチラシを配布し、より多くの市民の方の協力を仰ぎました。

(届け!関西からいのちのバトン!代表:

赤木晴香 関西骨髄バンク推進協会所属骨髄バンク説明員)

山形 コロナ禍での普及啓発事業



山形県庁舎1階県民ロビーの展示風景 MAMOのメッセージ展(向かって左側)、移植を受けた子どもたちの絵画展(右側)

皆さま御存知のとおり、10月は骨髄バンク推進月間です。それに合わせ、山形県庁舎1階県民ロビーでは、10月1日(木)から15日(木)までの2週間ほど「MAMOのメッセージ展」を開催しました。また、臓器移植普及推進月間でもあることから、隣接するスペースには臓器移植を受けた子どもたちの絵画展を掲示し、移植医療の普及啓発に取り組んだところです。

今年度の事業は新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい船出となりました。本県では、保健所主催による献血併行型骨髄バンクドナー登録会を実施していますが、4~6月では1回しか実施できていません。また、出展ブースでの普及啓発を検討していた健康フェアや病院まつり等も軒並み中止・延期となり、骨髄移植を含む移植医療の普及啓発活動を十分に行うことができない日々が続いています。

それでも、7月からは、骨髄バンクを支援するやまがたの会、赤十字血液

センター、保健所職員の協力の下、3密を避ける等、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しながら、登録会を順次再開しています。7~9月で9回の開催、計100名を超える方から新たに骨髄バンクドナー登録をいただきました。

また、対面での普及啓発が困難であることから、今年度は「MAMOのメッセージ展」をはじめ、ポスター等の展示場所を昨年度の2カ所から6カ所に増やし、普及啓発活動を行っています。冒頭に記載した県庁舎1階県民ロビーでの展示もその一つです。

依然として、新型コロナウイルス感染症の終息は見えない中ですが、可能な範囲でドナー登録会、普及啓発を続けていく必要があると感じています。

最後になりますが、この寄稿依頼をいただいた日が、中秋の名月であり、故ニール・アームストロング氏の言葉に思いを馳せます。一人一人の小さな一歩でも、合わされば大きな力になることを信じ、“with コロナ”で実践できることを考えながら、骨髄バンクを支援するやまがたの会などの関係団体、赤十字血液センター、行政等が連携し、骨髄バンク推進に努めてまいります。今後とも皆さまの御協力をお願い申し上げます。

(山形県健康福祉部医療政策課 伊藤 奨)

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【サポート会員】

福川郁夫 = 茨城県

心からのご寄付に感謝申し上げます ●9月21日~10月20日(敬称略)

●一般	ゴウ メグミ 現金 10,000円	株式会社カンセキ若草店
菊水酒造株式会社	江崎 切手 3,350円	現金 6,664円
現金 500,000円	匿名 現金 3,000円	磯屋食堂 伊藤 博康
中外製薬株式会社	匿名 現金 1,000円	現金 12,462円
現金 20,000円	●募金箱	流山商工会議所
株式会社チエノワ情報システムズ	株式会社クスリのアオキ	現金 9,399円
現金 5,720円	現金 723,415円	十日町商工会議所
福元 美和子 現金 2,641円	株式会社北越ケーズ	現金 866円
福原 卓也 現金 3,000円	現金 169,400円	●つながる募金
徳永 慎二 現金 300円	株式会社マルト商事	現金 13,600円
塩谷 圭 現金 1,000円	現金 73,629円	●キモチと。
	鈴木 至子 現金 10,000円	現金 358円

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会